

# 経済学を学ぶためのレディネスに関する一考察

—— 大学入学直後の日本人学生と中国人留学生を比較して ——

重 田 美 咲  
中 原 郷 子\*  
森 邦 恵

## 目 次

1. はじめに
2. 調査の概要
3. 分析の方法
4. 調査の結果と考察
  - 4-1 得点の比較
  - 4-2 正答率の高い問題
  - 4-3 正答率の低い問題
  - 4-4 重田・中原・森（2016）との比較
  - 4-5 誤字
  - 4-6 表記
5. 大学の初年次教育における可能性
  - 5-1 初年次日本語教育
  - 5-2 初年次専門教育
6. まとめ

## 1. はじめに

大学で学ぶ学部留学生に対する日本語教育で、決して忘れてはいけない点は、英語による授業が多い一部の大学を除けば、留学生は日本人学生と同様に日本語で授業を受け、日本語でレポートを書き、日本語で定期試験を受けながら、単位取得、卒業を目指すということである。それを踏まえると、経済学部で学ぶ留学生はできるだけ早い段階で日本人学生と同程度に経済学を学ぶためのレディネス<sup>1)</sup>を整えておく必要がある。漢字が理解できることから日本語での学習に有利であるとされる中国人留学生でも、日本人学生と比べると、日本の大学で経済学を学ぶためのレディネスは整っていないと考えられる。中国人留学生と日本人学生では経済学を学ぶためのレディネスにどのような差があるのか、学部留学生の初年次日本語教育にはどのような課題がある

のか明らかにするために、重田・中原・森（2016）では、小宮（2014a）において提示された「学部入学前の習得が期待されている経済の基礎的専門語の学習語彙」である「留学生のための経済の基礎的専門語」について、経済学部入学直後の中国人留学生と日本人学生の習得状況を比較する調査を行った。その結果、中国人留学生の漢字の読みの正答率が日本人学生の正答率より低いこと、中国人留学生には、長音、促音、濁音、半濁音に関する誤答が多いこと、固有名詞に関する誤答が多いこと、カタカナ語の理解度が低いこと、中国人留学生の理解度の低い語には日本人学生の理解度の低い語も多く含まれていること等が明らかになった。この調査は「留学生のための経済の基礎的専門語」の漢字の読みと理解度に焦点を当てて行なったものであるが、理解度に関しては自己評価で示すという方法を採用したため、必ずしもその語を正しく理解し、正しく活用できるという評価にはならないのではないかと課題も残った。この課題を受け、今回の調査では、中学公民の経済学に関する分野の問題を解くことで、大学入学直後の日本人学生と中国人留学生にどのような差があるのかを明らかにする。そして、その結果から、学部留学生の初年次日本語教育、初年次専門教育に関する提言を行いたい。

## 2. 調査の概要

調査は、日本人学生、中国人留学生ともに入学間もない1年生を対象に行った。一定数のデータを得るため、2014年、2015年、2016年の3回にわたって調査を行った。調査対象者が在籍するのは、日本

\* 九州大学留学生センター非常勤講師

人の受験生向けの難易度ランキングで中程度とされ、留学生入試に「総合科目」の受験を課さず、日本人学生のセンター試験においても経済関連科目の受験を必須としないある大学の経済学部である。対象とする留学生は、重田・中原・森（2016）と同様に、日本における国別留学生数が最も多く、留学生全体の45.2%を占め<sup>2)</sup>、調査対象校においても国別留学生数が最も多い中国人留学生と定めた。今回、調査協力者となった中国人留学生は、日本語能力試験N1合格、または、それに近い日本語能力をもつ。調査協力者数は【表1】の通りである。

【表1】調査協力者数

	日本人学生	中国人留学生	合計
2014年	10	10	20
2015年	31	10	41
2016年	22	7	29
合計	63	27	90

調査協力者には、『中間・期末テスト ズバリよくでる 社会 公民 清水書院版 新中学校公民』（以下、『ズバリよくでる』と略す）の36～37頁、42～43頁、48～49頁を解くことを求めた<sup>3)</sup>。これらの頁は中学生の中間・期末テストの予想問題となっており、6頁合わせて、中学公民の経済分野の学習内容全体を範囲とすることになる。詳細は【表2】の通りである。『ズバリよくでる』は中学校の成績評価が主に観点別評価であることを意識して作られており、今回、調査で使用した問題にも、どのような観点をみる問題かが示されている。【表2】に示す「思」は「社会的思考・判断・表現」、「技」は「資料活用 of 技能」、「知」は「社会的現象についての知識・理解」を示す。更に、本研究では、解答形式にも着目し、「数値」、「語彙」、「選択」、「記述」、「誤

りを見つけ直す」の5つに分類した。「数値」が解答となるのは、表やグラフから量や割合を読み取って答える問題である。「語彙」は「何といますか」、「何とよばれますか」といった問題である。「選択」には、四択の他、「上がるか下がるか」のように二択で答えるもの、複数の選択肢の中から選んで複数の問題の解答とするもの、選択すべき答えが1つとは限らないものが含まれる。「記述」は「簡単に説明しなさい」、「例をあげなさい」という問題である。「誤りを見つけ直す」は「文の下線部が正しいものには○、まちがっているものには適切な語をそれぞれ書きなさい」としたものである。

### 3. 分析の方法

まず、日本人学生と中国人留学生の『ズバリよくでる』の得点を比較し、両者に差があるか否かを検討した。更に、日本人学生と中国人留学生で解答の得手不得手の傾向に違いがあるか否かを明らかにするために、内容別、観点別、解答形式別に分析を行った。その際、母語、つまり日本人学生と中国人留学生の得点の違いには対応のないt検定を行い、母語と内容、母語と観点、母語と解答形式には、正答率を角変換した値を用いてそれぞれ母語を参加者間要因、内容、観点、解答形式を参加者内要因とする2要因分散分析を行った。4要因分散分析を行わなかった理由は、例えば、解答形式「誤りを見つけ直す」は内容「労働者・消費者の権利」のみで用いられているなど、全ての参加者内要因が互いに網羅していないためである。なお、いずれも有意水準は5%とした。それに加え、正答率の高い問題、低い問題を抽出し、分析を行った。次に、『ズバリ

【表2】調査に用いた問題の概要

頁	問題	内容	観点	解答形式 <sup>4)</sup>
36頁	1	市場と価格メカニズム	思、技	(1) 数値、(2) 選択、(3) 数値、(4)～(6) 選択、(7) 語彙、(8) 語彙
37頁	2	経済活動と貨幣量	思、知	(1)～(5) 語彙、(6)～(7) 選択
42頁	1	企業活動	思、知	(1) 語彙、(2)～(3) 選択、(4) 語彙、(5) 記述、(6) 選択、(7) 語彙、(8) 語彙、(9) 記述
43頁	2	貨幣の流れ	思、知	(1)～(4) 選択
	3	日本の貿易	思、技	(1)～(3) 選択
48頁	1	地方財政と税制度	思、技	(1) 語彙、(2) 数値、(3) 語彙、(4) 選択、(5) 記述、(6) 語彙、(7) 語彙、(8) 数値、(9) 語彙、(10) 選択
49頁	2	社会保障制度	思、知	(1) 選択、(2) 語彙、(3) 選択、(4) 語彙
	3	労働者・消費者の権利	思、知	(1)～(6) 誤りを見つけ直す

【表3】内容別、観点別、解答形式別の平均得点と標準偏差

	満点	日本人学生 (n=63)		中国人留学生 (n=27)	
		M	SD	M	SD
内容	市場と価格メカニズム	40	26.63 (5.46)	23.61 (5.29)	
	経済活動と貨幣量	60	28.86 (7.40)	17.78 (8.16)	
	企業活動	55	29.18 (9.17)	15.93 (8.67)	
	貨幣の流れ	15	10.56 (2.67)	8.85 (2.90)	
	日本の貿易	30	17.22 (8.72)	18.70 (8.78)	
	地方財政と税制度	44	24.84 (9.11)	9.04 (8.43)	
	社会保障制度	32	18.68 (6.43)	15.44 (5.90)	
	労働者・消費者の権利	24	9.90 (4.02)	4.89 (4.12)	
観点	思・技	114	67.73 (17.36)	51.35 (16.81)	
	思・知	186	96.45 (21.08)	62.89 (21.08)	
解答形式	数値	18	10.04 (3.47)	8.39 (2.90)	
	選択	117	83.00 (14.28)	73.04 (14.79)	
	語句	127	54.48 (14.78)	24.44 (14.29)	
	記述	14	8.44 (4.00)	3.48 (3.40)	
	誤りを見つけ直す	24	9.90 (4.02)	4.89 (4.12)	

よくでる』の得点と重田・中原・森(2016)における「留学生のための経済の基礎的専門語」の読みと理解度の得点との間における相関関係を分析した。最後に、誤字や表記に着目して、日本人学生と中国人留学生との比較を行った。

#### 4. 調査の結果と考察

##### 4-1 得点の比較

『ズバリよくでる』の参加者ごとの内容別、観点別、解答形式別の平均得点と標準偏差を【表3】に表す。

日本人学生と中国人留学生の『ズバリよくでる』の得点を比較すると、中国人留学生のほうが有意に低かった ( $t(88)=7.45, p<.01$ )。

母語と内容について2要因分散分析を行なった結果、いずれの主効果も有意であり(母語:  $F(1, 88)=39.82, p<.001$ ; 内容:  $F(7, 616)=39.51, p<.001$ )、両者の交互作用も有意であった ( $F(7, 616)=9.67, p<.001$ )。単純主効果の検定を行なったところ、日本人学生の得点が中国人留学生より高い内容として、「経済活動と貨幣量」( $F(1, 704)=13.10, p<.001$ )、「企業活動」( $F(1, 704)=24.94, p<.001$ )、「貨幣の流れ」( $F(1, 704)=6.44, p<.05$ )、「地方財政と税制度」( $F(1, 704)=60.97, p<.001$ )、「労働者・消費者の権利」( $F(1, 704)=29.36, p<.001$ )において有意差がみられ、「社会保障制度」において傾向差がみられた ( $F(1, 704)=3.56, p<.10$ )。

母語と観点について2要因分散分析を行なった結果、母語の主効果、観点の主効果が有意であった(母語:  $F(1, 88)=37.43, p<.001$ ; 観点: ( $F(1, 88)=31.38, p<.001$ )。つまり、日本人学生の得点が中国人留学生より、「思、技」の得点が「思、知」の得点より高いことが明らかになった。交互作用は有意ではなかった ( $F(1, 88)=1.04, n.s.$ )。

母語と解答形式の2要因分散分析の結果、母語、解答形式の主効果が有意であった(母語:  $F(1, 88)=59.86, p<.001$ ; 解答形式:  $F(4, 352)=49.45, p<.001$ )。また母語と解答形式の交互作用も有意であった ( $F(4, 352)=10.54, p<.001$ )。単純主効果の検定を行ったところ、次の5点が明らかになった。すなわち、1)「数値」で日本人学生の得点が中国人留学生より高いこと ( $F(1, 440)=4.85, p<.05$ )、2)「選択」で日本人学生の得点が中国人留学生より高い傾向がみられること ( $F(1, 440)=2.90, p<.10$ )、3)「語彙」で日本人学生の得点が中国人留学生より高いこと ( $F(1, 440)=24.61, p<.001$ )、4)「記述」で日本人学生の得点が中国人留学生より高いこと ( $F(1, 440)=79.97, p<.001$ )、5)「誤りを見つけ直す」で日本人学生の得点が中国人留学生より高いこと ( $F(1, 440)=28.99, p<.001$ ) が明らかになった。

##### 4-2 正答率の高い問題

正答率が高かった問題(正答率85%以上)として【表4】のようなものが挙げられた。

中国人留学生の正答率が高い問題は5問であり、

【表4】正答率の高い問題

問題	中国人留学生の正答率	日本人学生の正答率	内容	観点	解答形式
36頁1(2)	81.5%	88.9%	市場と価格メカニズム	思、技	選択(「上がる」か「下がる」かの二択)
36頁1(3)	96.3%	98.5%	市場と価格メカニズム	思、技	数値(グラフから均衡価格を読み取る)
37頁2(1)①	81.5%	92.1%	経済活動と貨幣量	思、知	語彙「消費」(漢字二文字という制約あり)
37頁2(6)	74.1%	90.5%	経済活動と貨幣量	思、知	選択(四択)
37頁2(7)	63.0%	87.3%	経済活動と貨幣量	思、知	選択(四つの選択肢から二つ選ぶ)
42頁1(4)	63.0%	95.2%	企業活動	思、知	語彙「独占」(漢字二文字という制約あり)
42頁1(6)	85.2%	98.4%	企業活動	思、知	選択(四択)
43頁2(1)②	66.7%	87.3%	貨幣の流れ	思、知	選択(①～④に当てはまるものを⑦～⑩から選ぶ) 正答「⑦預金」
43頁2(1)④	70.4%	93.7%	貨幣の流れ	思、知	選択(①～④に当てはまるものを⑦～⑩から選ぶ) 正答「⑩日本銀行」
43頁3(2)	88.9%	87.3%	日本の貿易	思、技	選択(四択) 正答「④米ドル」
48頁1(6)①	55.6%	95.2%	地方財政と税制度	思、技	語彙「相続税」
49頁2(3)b	96.3%	87.3%	社会保障制度	思、知	選択(a～cにあてはまるものを⑦～⑩から選ぶ)「～福祉」が並んでいるので答えやすい。正答「⑦老人福祉」
49頁2(3)c	92.6%	88.9%	社会保障制度	思、知	選択(a～cにあてはまるものを⑦～⑩から選ぶ)正答「④下水道整備」
49頁3(3)	33.3%	93.7%	労働者・消費者の権利	思、知	誤りを見つけ直す(誤りがないため○をつければよい)

この全てが日本人学生にとっても正答率の高い問題であった。観点別では「思、技」3問、「思、知」2問で、解答形式別では、選択4問、グラフから均衡価格を読み取る問題が1問であった。選択肢がある問題は解きやすいことがわかる。内容別では「市場と価格メカニズム」、「企業活動」、「日本の貿易」各1問、「社会保障制度」2問であった。「市場と価格メカニズム」に関して正答率が高い理由としては、ちょうど1年生が必修・選択必修として履修している経済基礎科目において、同内容の講義を受けた直後であったことが考えられる。それでも、中国人留学生の正答率は日本人学生の正答率より低い。更に、中国人留学生では正答率が高いとは言えないが日本人学生では正答率が高い問題が9問ある。これらの問題は「選択」5問、「語彙」3問、「誤りを見つけ直す(誤りがないため○をつければよい)」1問であった。「選択」が多いが、「語彙」や「誤りを見つけ直す」といった解答形式においても正答率の高い問題があり、正答率の高い問題が「選択」に偏る中国人留学生と比べ、特徴的である。また、学習状況の

観点から考察すると、日本人学生にとって正答率の高い問題は、小学校高学年から中学・高校にかけて繰り返し学習する内容で理論的な問題か社会性の高い問題である。そして、日本人学生の正答率は高いが中国人留学生の正答率がそれほど高くない問題、特に「労働者・消費者の権利」については、重田・中原・森(2016)でも指摘したように、中国と日本の経済システムの違いによる影響が考えられる。

#### 4-3 正答率の低い問題

正答率が低い問題(正答率5%以下)として【表5】のようなものが挙げられた。

中国人留学生で正答率が低かったものが17問であったのに対し、日本人学生で正答率が低かったものは6問であった。日本人学生で正答率が低かったものは全て中国人留学生でも正答率が低かった。観点別で見ると、その6問全部が「思、知」であり、日本人学生、中国人留学生ともに「社会的事象についての知識・理解」に集中していることがわかる。解答形式別では、「語彙」4問、「誤りを見つけ直す」

【表5】正答率の低い問題

問題	中国人留学生の正答率	日本人学生の正答率	内容	観点	解答形式
36 頁 1(7)	0%	28.6%	市場と価格メカニズム	思、技	語彙「公共料金」
36 頁 1(8)	3.7%	3.2%	市場と価格メカニズム	思、技	語彙「消費者物価指数」
37 頁 2(2)	0%	0%	経済活動と貨幣量	思、知	語彙「事業所得」
37 頁 2(3)	0%	1.6%	経済活動と貨幣量	思、知	語彙「非消費支出」
37 頁 2(5)	0%	28.6%	経済活動と貨幣量	思、知	語彙「不換紙幣」
42 頁 1(1) ③	3.7%	1.6%	企業活動	思、知	語彙「会社企業」
42 頁 1(7)	0%	76.2%	企業活動	思、知	語彙「ベンチャー企業」
42 頁 1(8)	3.7%	27.0%	企業活動	思、知	語彙「間接金融」
48 頁 1(2)	0%	17.5%	地方財政と税制度	思、技	数値（直接税はどれか判別した上で和を出す）
48 頁 1(7)	0%	44.4%	地方財政と税制度	思、技	語彙「地方交付税」
48 頁 1(8)	3.7%	22.2%	地方財政と税制度	思、技	数値（国から支払われるものを判別した上で和を出す）
48 頁 1(9)	3.7%	36.5%	地方財政と税制度	思、技	語彙「地方債」
49 頁 2(2)A	0%	23.8%	社会保障制度	思、知	語彙「公的扶助」
49 頁 2(4)	3.7%	11.1%	社会保障制度	思、知	語彙「厚生年金」
49 頁 3(2)	3.7%	3.2%	労働者・消費者の権利	思、知	誤りを見つけ正しい語「労働委員会」を書く
49 頁 3(4)	3.7%	23.8%	労働者・消費者の権利	思、知	誤りを見つけ正しい語「消費者庁」を書く
49 頁 3(5)	0%	3.2%	労働者・消費者の権利	思、知	誤りを見つけ正しい語「消費者契約法」を書く

2問であった。内容別に見れば、「市場と価格メカニズム」1問、「経済活動と貨幣量」2問、「企業活動」1問、「労働者、消費者の権利」2問である。4-2でも述べたように、解答する学生の受講状況によるところもあり、例えば「市場と価格メカニズム」の理論的な設問（36 頁 1 (2)、(3)）については正答率が高いが、同じ設問カテゴリーでもまだ講義を受けておらず、なおかつ語彙で解答する問題の正答率は低いという傾向がみられた。一般的に、語彙での解答が求められる問題は選択問題に比べて正答率が低くなるが、学習状況の内容からも「近々の学習機会の有無」および「現象ではなく仕組みを説明する語彙」について正答率が低くなることが推測される。

中国人留学生のみで正答率が低かったものは11問であった。解答形式別では、「語彙」8問、「誤りを見つけ正す」1問、「数値」2問、（直接税はどれか判別した上で和を出す、国から支払われるものを判別した上で和を出す）であった。4-2では、中国人留学生の正答率が高い問題に「数値（均衡価格を読み取る問題）」があったが、正答率の低い問題2問は「数値」でも単にグラフを読み取るのではなく、直接税や国から支払われるものを判別しなけれ

ばならない点で難しかったと考えられる。観点別では「思、技」5問、「思、知」6問であり、「思、知」だけでなく「思、技」でも正答率の低い問題があることから、「資料活用の技能」も日本人学生に比べると中国人留学生は低いことが窺える。内容別にみれば、「貨幣の流れ」、「日本の貿易」以外において正答率の低い問題がみられ、中国人留学生が母国と異なる経済・社会システムの仕組みについて理解していないことがわかる。また、4-2の正答率の高い問題に日本人学生では「語彙」が3問あったが、中国人留学生では「語彙」はなく、正答率の低い問題において「語彙」の多さが目立つ。そして、「語彙」の問題の解答となる語彙と「誤りを見つけ正す」問題の解答となる語彙に着目したところ、「ベンチャー企業」以外は全て漢語の複合語であることがわかった。更に、それらの語彙を中国語と比較したところ、中国語でも日本語と同じ表記、または、ほぼ同様に表記するものばかりであった。

#### 4-4 重田・中原・森（2016）との比較

『ズバリよくでる』の得点と重田・中原・森（2016）における「留学生のための経済の基礎的専門語」の読みと理解度との得点の相関関係を分析し

た<sup>4)</sup>。「留学生のための経済の基礎的専門語」の漢字の読みと公民の問題に関しては、日本人学生においても、中国人留学生においても相関がみられなかった（日本人学生： $r=.24$ ,  $n.s.$ ；中国人留学生： $r=-.14$ ,  $n.s.$ ）。日本人学生では、『ズバリよくでる』の得点と「基礎的専門語」の理解度との間に弱い相関がみられた（ $r=.38$ ,  $p<.05$ ）。他方、中国人留学生では『ズバリよくでる』の得点と、専門語の理解度との間に相関はみられなかった（ $r=-.36$ ,  $n.s.$ ）。

それに加え、4-3の中国人留学生の正答率が低い問題の中で、「語彙」と「誤りを見つけ直す」問題の解答となる語彙を重田・中原・森（2016）の「留学生のための経済の基礎的専門語」の理解度の結果と比較した【表6】。上述の正答率の低い語彙のうち、「留学生のための経済の基礎的専門語」に完全に一致するものは、「間接金融」、「公共料金」、「公的扶助」、「消費者契約法」、「地方債」、「労働委員会」であった。「留学生のための経済の基礎的専門語」の理解度は、「よくわかる（7点）」から「全くわからない（1点）」までの7段階のリッカート法で自己評価されたものの平均値を示している。

【表6】『ズバリよくでる』正答率と「留学生のための経済の基礎的専門語」理解度の比較

経済の基礎的専門語	理解度平均値	『ズバリよく出る』正答率
間接金融	3.6	3.7%
公共料金	4.6	0%
公的扶助	5.0	0%
消費者契約法	4.2	0%
地方債	3.9	3.7%
労働委員会	4.5	3.7%

【表6】から『ズバリよくでる』で正答率の低い語彙も「留学生のための経済の基礎的専門語」の理解度では決して低くないことがわかる。このことから、語彙を見て自分はわかると判断していても、逆にその語彙を導き出すような問題を解くことはできない中国人留学生の実態が明らかになった。この要因として、まず、4-3で述べたようにこれらの語が中国語と同じまたは似ており、漢字を頼りに意味を想像できることから、重田・中原・森（2016）の調査で中国人留学生はその語を本当に理解しているわけではないにもかかわらず、表面的に漢字の意味が理解できただけで、理解度を高く評価してしまった

可能性がある。また、問題を解くスキル、問題文を理解する日本語能力が十分ではない可能性も考えられる。大学で定期試験等を受けていかなければならない留学生の状況を考えると、知識に加え、問題を解くスキルや問題を理解する日本語能力も身につける必要がある。

#### 4-5 誤字

日本人学生の回答のうち、「地方交付税」の「交付」で12名（平仮名での表記1名を含む）、「寡占」の「寡」で9名、「地方債」の「債」で2名、「貯蓄」の「蓄」、「相続税」の「税」、「低い」の「低」、「清掃」の「掃」でそれぞれ1名に誤字が見られた。また、「厚生年金」も1名が平仮名で書いていた。「地方交付税」は、「交」を「公」と記したものの、「付」を「布」、「府」と記したものが見られた。「寡」に関しては、横の画が足りないものや多いもの、「刀」が「力」になったものが目立った。「債」は「積」・「責」と、「税」は「説」と、「掃」は「争」との書き間違いが見られた。「蓄」では画数が増やされており、「低」では最後の画が書かれていなかった。

一方、中国人留学生では、「低」で4名、「険」、「補」で1名ずつが簡体字をそのまま使用していた。「低」は最後の画が簡体字では点になる。「険」は簡体字では「険」、「補」は簡体字では「补」である。また、2名が「営」で「口」と「口」との間の画がなかった。「営」の簡体字は「营」であり、草冠であることと「口」と「口」との間の画がないことが日本語とは異なる。また、中国人留学生では「少い」のように送り仮名の間違いも見られた。

#### 4-6 表記

日本人学生にはないが、中国人留学生に見られた解答として、「a」だけで解答として成り立つところを「aのほうが高い（下線は筆者による）」のように書く、選択肢の問題で「ア」と答えればいようなところを語彙のほうで答える、試験では「低い」のように普通体で答えるのが一般的であるが、「低いです」のように「です・ます」体で答えるという解答が見られた。また、記述の問題では、中国人留学生に空欄が目立った。無回答率は、42頁11(5)で日本人学生31.75%、中国人留学生66.67%、42

頁1(9)で日本人学生17.46%、中国人留学生37.04%、48頁1(5)で日本人学生9.52%、中国人留学生66.67%であった。更に、記述の問題において、中国人留学生では体言止めができていない解答が少なく、体言止めが出来ていたのは、42頁1(5)で日本人学生57.14%、中国人留学生7.41%、42頁1(9)で日本人学生49.21%、中国人留学生29.63%、48頁1(5)で日本人学生34.21%、中国人留学生0.04%であった。

## 5. 大学の初年次教育における可能性

### 5-1 初年次日本語教育

中国人留学生の得点が日本人学生より低いことは、母語か第二言語かという違いに加え、中等教育における社会科のカリキュラムが異なること<sup>5)</sup>や日本在住歴が異なり日本社会での経験や情報量が異なることから考えれば当然の結果とも言える。しかしながら、日本人学生と同様に学んでいく学部留学生の大学生活を考えると、その差を埋めるための教育を日本語や日本事情といった留学生用科目で担っていく必要がある。

まず、定期試験を受けるようになる前に、解答の仕方を指導しておく必要がある。記号で答えればよい問題は、記号だけで解答し、「aのほうが高い(下線は筆者による)」というような表現はしなくてよいこと、「です・ます」体ではなく普通体で答えること、語の説明を求められるような場合には解答を体言止めにするなど、解答の仕方に関しても早い段階で確認しておきたい。

次に、漢字について言えば、4-5で挙げた中国人留学生の漢字の誤用は中国語で示すと、最後の一点を点にする「低」を除けば、「險(陰)」、「補(補)」、「營(営)」となり、レポートや答案の評価を行う専門科目担当の教員には理解できない可能性も高い。専門語を中心に日本語と中国語の漢字の違いに関しても、再度、確認しておく必要がある。

また、正答率の低かった解答の殆どが中国語においても大体同じような表記がなされる基礎的な専門語であったことから、中国人留学生は中国語でもこれらの専門語の理解を十分にしていない可能性が高く、母語で十分に理解していない専門語を日本語で理解させていく点に日本の大学における日本語教

育、初年次専門教育の課題があると考えられる。中国語と同じ、または類似した漢語の複合語であるためか、中国人留学生は語を見れば自分が理解している語だと判断するが、その語を答えるような問題になると解けない。初年次日本語教育においては、専門語の説明を十分にしたうえで、専門語を答えさせるような問題を積極的に取り入れ、習得に導く必要があると考えられる。中国人留学生の正答率が高い問題には選択問題が多かったため、選択肢で答える問題を挟み、専門語を解答する問題を解くように段階的に習得を促すのが効果的であると考えられる。更に、留学生では、「記述」の問題で空欄が多く見られたことから、専門語をはじめとする難易度の高い語彙を自分の言葉で説明するような学習活動を積極的に取り入れる工夫も必要であると考えられる。

それに加え、中国人留学生は日本人学生に比べると「資料活用の技能」も低い傾向にあり、初年次日本語教育においては、資料を教材として取り入れる等して、このような点も補っていく必要があると考えられる。

### 5-2 初年次専門教育

日本人学生で正答率が低かったものは全て中国人留学生でも正答率が低かった。当然ながら日本人学生にとって難しいものは留学生にとって更に難しいものであるという留学生を含めた視点を持つことが専門科目担当教員にも期待される。また、日本人学生も漢字の誤字が多くなっており、初年次においては適切な水準の専門書の選択と専門用語の習得を繰り返すことも求められよう。

更に、日本人学生、中国人留学生ともに「社会的事象についての知識・理解」は新聞やテレビなどで知識が補強されていることもあり高い正答率であるが、その事象の構造・仕組みや経緯についての理解は乏しい。社会科目は、学生にとって、とすれば「暗記科目」として位置づけられることが多いが、社会構造の仕組みを意識した理論的な科目として学生に対応すべきであると考えられる。

重田・中原・森(2016)でも指摘したように、異なる経済・社会システムをとっている国からの留学生は、日本人学生に与える身近な例を理解できない部分もある。知識の定着として、「他の事柄で例える」(応用させる)ことは有効だが、その前提とな

る社会背景が異なる場合に、どのような例を出すべきか。現象についての理解が高いのであれば、全世界的に話題となったニュースなどの事例によって行うことも一つの方法であろう。学生個人の価値観に依拠しない、客観的な捉え方ができる話題によって説明を行うことは、特に多数の受講生を抱える講義で有効であると考えられる。

## 6. まとめ

本稿では、中学公民の経済学に関する分野の問題を解くことで、大学入学直後の日本人学生と中国人留学生にどのような差があるのかを明らかにした。結果として、中国人留学生の得点は総合的に見ても、内容、観点、回答形式別に見ても日本人学生に比べて低いことが明らかになった。更に、中国人留学生には日本人学生には見られないような誤字や表記の傾向があること、中国人留学生は語彙を答える問題や記述で説明するような問題を苦手とする傾向にあること、日本人学生に比べ「資料活用の技能」が高くないこと等も明らかになった。それを受け、初年次日本語教育では、解答の仕方、漢字の指導、専門語の定着を促す指導方法について留意する必要があることを指摘した。初年次専門教育においては、社会的事象についての知識・理解という点的な知識の習得から、構造を体系的・理論的に理解させる必要性を指摘した。また、学生個人の価値観によって理解が及ばない可能性を極力避けるため、共有できる話題によって説明を行うことの重要性も指摘した。

学部留学生が日本人学生と共に経済学を学ぶためには、できるだけ早い段階で経済学を学ぶためのレディネスを整えることが必要である。経済学を学ぶためのレディネスが整えば、専門科目を効果的に学習することができ、より豊かな大学生活を送ることができるのではないだろうか。

## 注

- 1) 渡辺 (2013) は、レディネスを「学習や教育が有効に行われるための下地あるいは準備性」と定義している。
- 2) 日本学生支援機構「平成 27 年度 外国人留学生在籍状況調査結果」 < [http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/documents/data12.pdf](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data12.pdf) >
- 3) 中学教科書の改訂に伴い 2016 年に新しく刊行されているが、本研究では、2016 年の調査においても、それ以前と同じ問題を使用した。
- 4) 重田・中原・森 (2016) の調査協力者と本研究における 2015 年の調査協力者が一致するため、2015 年の『ズバリよくでる』のデータと重田・中原・森 (2016) の「留学生のための経済の日本語」の読みと理解度を比較した。
- 5) 木全清弘 (2001) 「中国における中学社会科カリキュラムと社会科教科書」『滋賀大学教育学部紀要 教育科学』No.51、pp.51-76.

## 主要参考文献

- 小宮千鶴子 (2014a) 「留学生のための経済の基礎的専門語」『早稲田日本語研究』23 号、pp.1-12.
- 小宮千鶴子 (2014b) 「留学生のための「経済の基礎的専門語」の有効性」『日本語教育』157 号、pp.1-12.
- 重田美咲・中原郷子・森邦恵 (2016) 「「留学生のための経済の基礎的専門語」習得に関する一考察—大学入学直後の日本人学生と中国人留学生を比較して—」『下関市立大学論集』第 59 巻 第 3 号、pp.127-138.
- 新興出版社啓林館 (2012) 『中間・期末テスト ズバリよくでる 社会 清水書院版 新中学校 公民』
- 渡辺宏純 (2013) 「レディネス」『新版教育小事典【第 3 版】』、学陽書房、p.322

## 【謝辞】

『中間・期末テスト ズバリよくでる 社会 清水書院版 新中学校 公民』の使用を許可して下さった株式会社新興出版社啓林館様と「留学生のための経済の基礎的専門語」の使用を許可して下さった小宮千鶴子先生に心から感謝の意を表します。